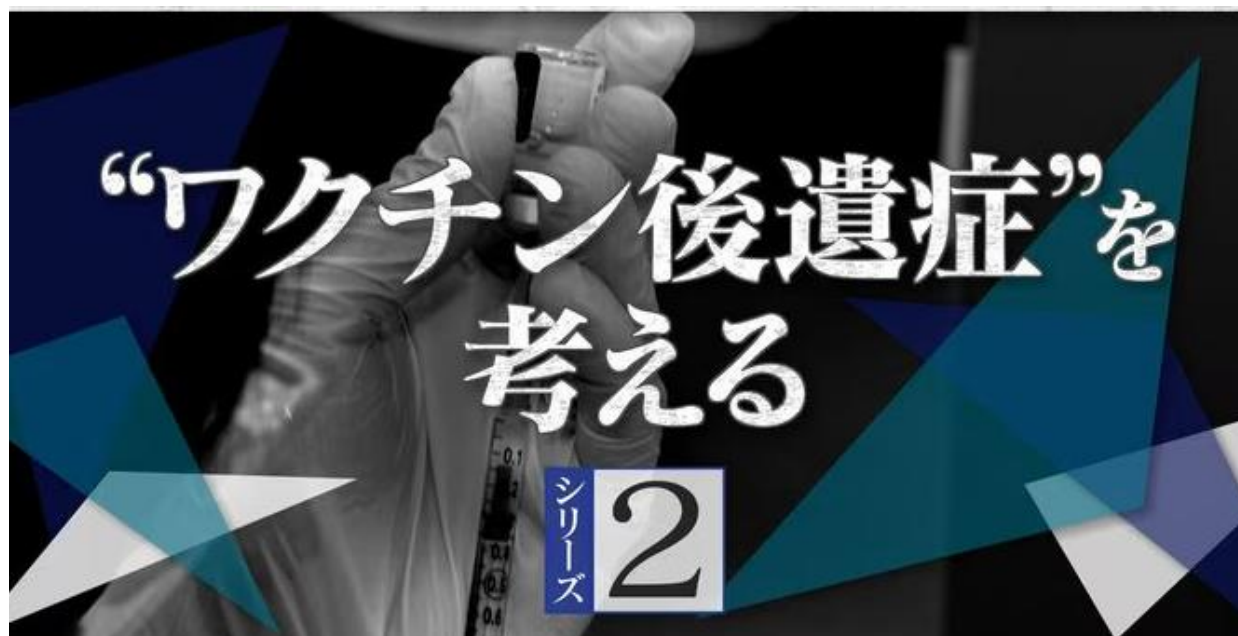


新型コロナワクチンを打っても“未接種扱い”にしていた… 厚労省「理由は不明だが意図的なものではない」突如データ“修正”【“ワクチン後遺症”を考える シリーズ2】

12/20 CBC テレビ

▼CBC では新型コロナワクチンの副反応問題などについて、2021 年から取材を進めてきました。これまで放送した内容を複数回に分けて振り返ります。この記事は、2022 年に放送したものです。

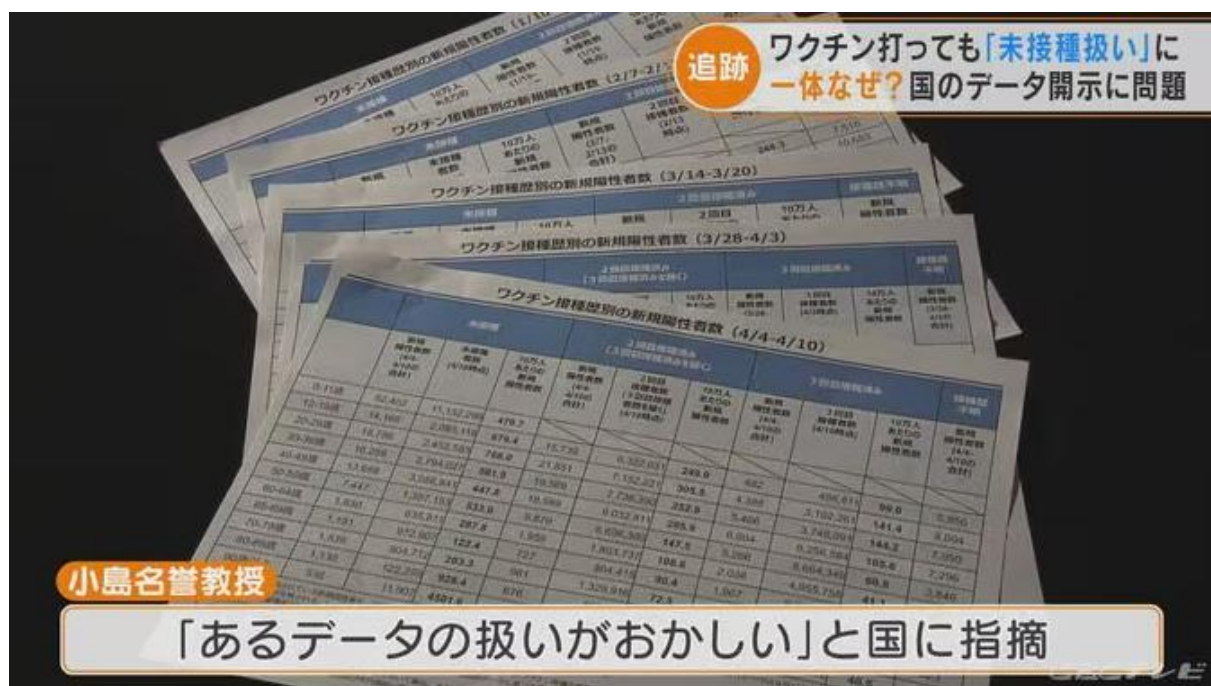


厚生労働省は、10 万人あたりの新規陽性者数を「新型コロナワクチンを打ったか打っていないか」で分けて公表していますが、その中でワクチンを打っている人の一部が“未接種者扱い”になっていたことがわかりました。

専門家の指摘を受けた厚労省は、突如データを修正。その結果、ワクチンを打っていない人の新規陽性者数が大幅に激減しました。この「結果」が示すこととは。

「これはおかしい、日本人は特別かなと」

名古屋大学の小島勢二名誉教授は、新型コロナワクチンに関する「あるデータ」の扱いがおかしいと、厚生労働省に指摘しました。



(名古屋大学・小島勢二名誉教授)

「海外の報告を見ると、オミクロン株にはワクチンの予防効果がかなり減ってしまったという話が1月の時点であった。ところが厚生労働省が出しているデータを見ると、(予防効果が) すごくいいんですね。海外は(予防効果が) 20%になったというのに、日本では最初の治験のデータと同じで、まだ90%あった。これはおかしいな、日本人は特別かなと」

ワクチンを接種した方が感染しにくい?

厚生労働省は、10万人あたりの新規陽性者数を「ワクチンを打ったか、打たないか」で

分けて公表しています。

打っていない人を赤、2回打った人を青でグラフにすると、打っていない人の方が新規陽性者数が多いという結果に。

厚労省の資料を元に作成したグラフからは「ワクチンを打った方が感染しにくい」と読み取れますが…



2022年1月以降主流になったオミクロン株では「ワクチンの感染予防効果が低い」という報告が世界中で増えていました。

ところが、厚労省の数値では、4月に入ってもワクチンを接種した方が感染しにくいことになっています。

ワクチン接種歴別の新規陽性者数(4/4-4/10)										
	未接種			2回目接種済み (3回目接種済みを除く)			3回目接種済み			接種歴不明
	新規陽性者数 (4/4-4/10の合計)	未接種者数 (4/10時点)	10万人あたりの 新規陽性者数	新規陽性者数 (4/4-4/10の合計)	2回目接種者数 (3回目接種者数を除く) (4/10時点)	10万人あたりの 新規陽性者数	新規陽性者数 (4/4-4/10の合計)	3回目接種者数 (4/10時点)	10万人あたりの 新規陽性者数	新規陽性者数 (4/4-4/10の合計)
0-11歳	52,402	11,132,299	470.7							
12-19歳	14,166	2,085,118	679.4	15,739	6,322,031	249.0	482	486,811	99.0	5,956
20-29歳	18,786	2,452,583	766.0	21,851	7,152,221	305.5	4,388	3,102,261	141.4	8,004
30-39歳	16,259	2,794,027	581.9	19,569	7,738,390	252.9	5,406	3,748,091	144.2	7,950
40-49歳	13,688	3,056,841	447.8	18,599	9,032,811	205.9	6,604	6,256,584	105.6	7,296
50-59歳	7,447	1,397,153	533.0	9,879	6,696,380	147.5	5,286	8,664,349	60.8	3,846
60-64歳	1,830	635,811	287.8	1,959	1,803,737	108.6	2,038	4,955,758	41.1	1,045
65-69歳	1,191	972,907	122.4	727	804,415	90.4	1,967	6,304,888	31.2	730
70-79歳	1,839	904,712	203.3	961	1,329,916	72.3	3,147	13,954,605	22.6	1,139
80-89歳	1,135	122,259	928.4	676	892,306	75.8	1,837	8,007,657	22.9	823
90歳以上	536	11,907	4501.6	266	310,549	85.7	829	2,048,292	40.5	357

指摘された厚労省は…突如データを“修正”

小島名誉教授が国会議員を通じて、このことを厚労省に指摘すると…

(名古屋大学・小島勢二名誉教授)

「4月11日からは(未接種者と2回目接種済みでは)感染予防効果が変わらないという結果に(修正された)」

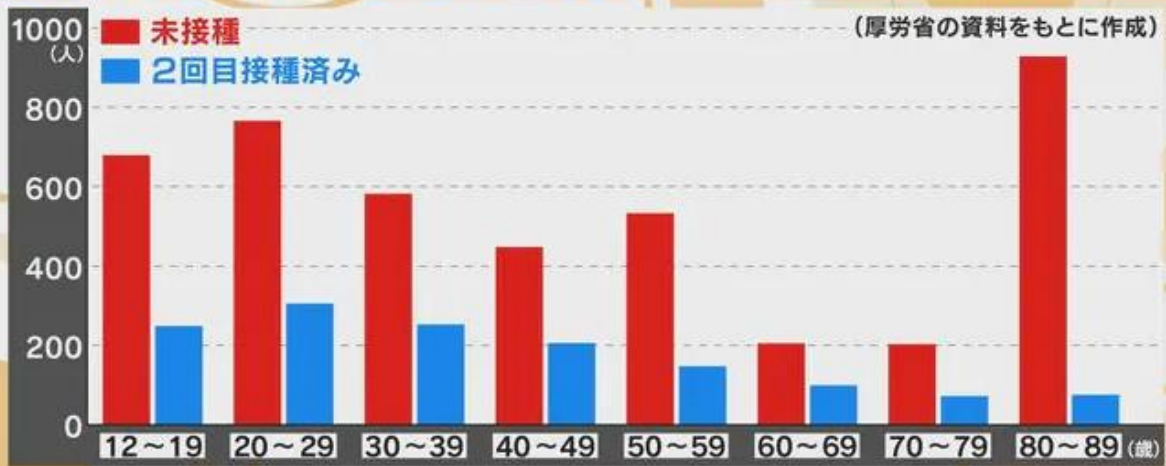


ワクチン接種歴別の新規陽性者数 (4/11-4/17)										
	未接種			2回目接種済み (3回目接種済みを除く)			3回目接種済み			接種歴 不明
	新規 陽性者数 (4/11- 4/17の 合計)	未接種 者数 (4/17時点)	10万人 あたりの 新規 陽性者数	新規 陽性者数 (4/11- 4/17の 合計)	2回目 接種者数 (3回目接種 者数を除く) (4/17時点)	10万人 あたりの 新規 陽性者数	新規 陽性者数 (4/11- 4/17の 合計)	3回目 接種者数 (4/17時点)	10万人 あたりの 新規 陽性者数	新規 陽性者数 (4/11- 4/17の 合計)
0-11歳	46,802	10,799,891	433.4							
12-19歳	7,338	2,112,048	347.4	15,474	6,128,908	252.5	580	658,769	88.0	13,047
20-29歳	8,618	2,441,705	353.0	18,718	6,643,372	281.8	4,454	3,624,780	122.9	15,583
30-39歳	7,346	2,796,470	262.7	18,340	7,033,316	260.8	6,175	4,453,712	138.6	17,308
40-49歳	5,139	3,076,496	167.0	16,158	7,884,204	204.9	7,385	7,387,327	100.0	15,334
50-59歳	2,669	1,371,231	194.6	8,295	5,493,818	151.0	5,760	9,894,133	58.2	8,164
60-64歳	629	630,752	99.7	1,628	1,387,341	117.3	2,272	5,377,778	42.2	2,331
65-69歳	413	987,572	41.8	644	651,337	98.9	2,244	6,443,717	34.8	1,666
70-79歳	524	894,758	58.6	909	1,058,375	85.9	3,447	14,237,203	24.2	2,521
80-89歳	357	107,159	333.1	592	717,055	82.6	2,068	8,199,319	25.2	1,744
90歳以上	174	3,435	5065.5	257	248,491	103.4	918	2,117,271	43.4	789

厚労省が突如、データを修正。

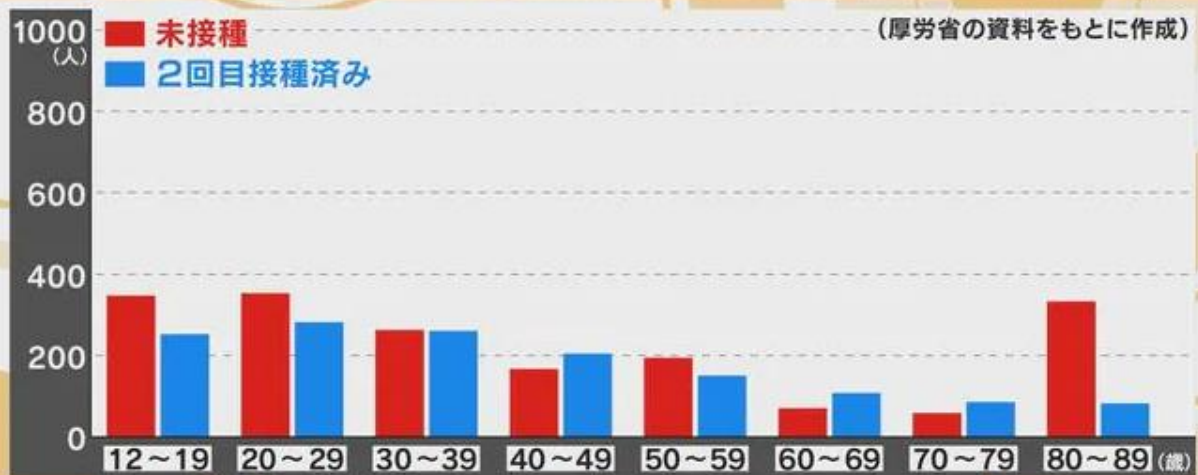
ワクチンを打っていない新規陽性者数が大幅に減り、それまでとは正反対ともいえるグラフに変わったのです。

10万人あたりの新規陽性者数(4/4~4/10)



指摘前

10万人あたりの新規陽性者数(4/11~4/17)



指摘後 厚労省が修正

なぜ、このような「正反対」のグラフに変わったのでしょうか？

「未記入」を「未接種」に分類していた

新型コロナウイルスで陽性者を発見した医師は、そのデータを厚労省に送る決まりになっています。

この時、ワクチン接種の日付が「未記入」だった場合、厚労省はなぜか全て「未接種」に分類していたのです。



では、どういった場合にワクチン接種歴が「未記入」になるのでしょうか？
発熱外来やワクチン接種に力を入れてきた名古屋のクリニックに尋ねると…



(細川外科クリニック・細川秀一院長 当時)

「(陽性者に) 必ず “あなたはワクチン打っているの？打っていないの？” と聞く。すると、“はい打ちました” もしくは“私は一度も打ったことはありません” と。その次は “いつ打ったの？” と必ず聞くんですけど、“いつだったっけ？” の返事が8～9割」
実際に厚労省に送る陽性者のデータ入力用紙を見せてもらいました。

ワクチンを打っていて「有」に○をした人でも、いつ打ったかわからなければ、接種歴が「未記入」もしくは「不明」になります。

こうした人たちは、厚労省によって未接種扱いになっていました。

③新型コロナウイルスワクチン接種歴

1回目 有(歳)

ワクチンの種類／製造会社 (mRNA／不明)

接種年月日 ((不明)年(不明)月(不明)日)

2回目 有(歳)

ワクチンの種類／製造会社 (mRNA／不明)

接種年月日 ((不明)年(不明)月(不明)日)

3回目 未選択

ワクチンの種類

接種日が「不明」「未記入」は未接種者扱いに

指摘後は「未接種」→「接種歴不明」に変更

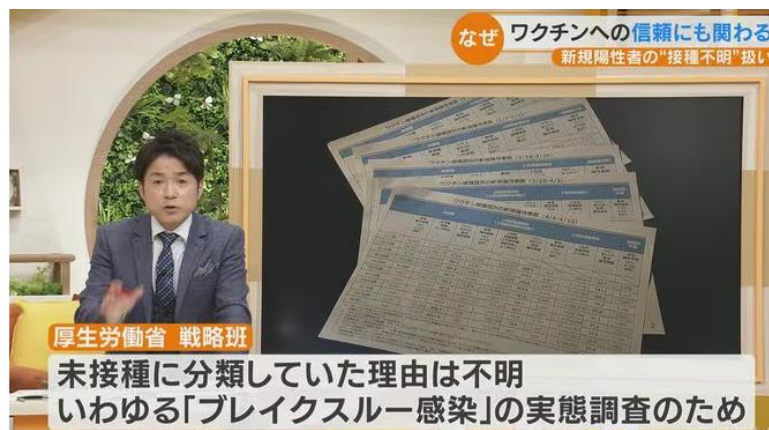
指摘後、厚労省は接種歴が未記入の場合、それまでの「未接種」ではなく「接種歴不明」に変更。

この問題については、参議院の厚生労働委員会でも取り上げられ、後藤茂之厚生労働大臣は。

(後藤茂之厚労大臣 当時)

「ワクチン接種歴が未記入の方について、厚生労働省が未接種に計上し、感染研が接種歴不明に計上していたと。それを厚生労働省の資料においても国立感染症研究所と同様に、接種歴不明として取り扱うことといたしました。この接種歴不明をどういうふうに扱っていくのかによって、データの読み方が変わるというご指摘、ちょっと詳しい内容までは私も捕捉しておりません」

また、厚労省の戦略班は、CBC テレビの取材に対し「未接種に分類していた理由は不明だが意図的なものではない。この調査はワクチンを打っても感染するいわゆる“ブレイクスルー感染”の実態を調べるためのもの」と回答しました。



なぜワクチンを“打っても打たなくても”結果が同じに？

ワクチンを打っていても、10 万人あたりの新規陽性者の数が、未接種者とそれほど変わらなくなったことについて、小島名誉教授は…

（名古屋大学・小島勢二名誉教授）

「例えば社会行動。ワクチンを打っていない人は気をつけてなかなか感染の機会が少ないけど、（ワクチンを打った人は）打ったからいいわと感染の機会が増えるかもしれない。

一番心配なのは、ヨーロッパの監督庁から出た話で、ワクチンを何回も打つとかえって免疫の力が落ちてしまうという勧告も出ているんですね。だからこれは、そういうことを意味しているかもしれない」